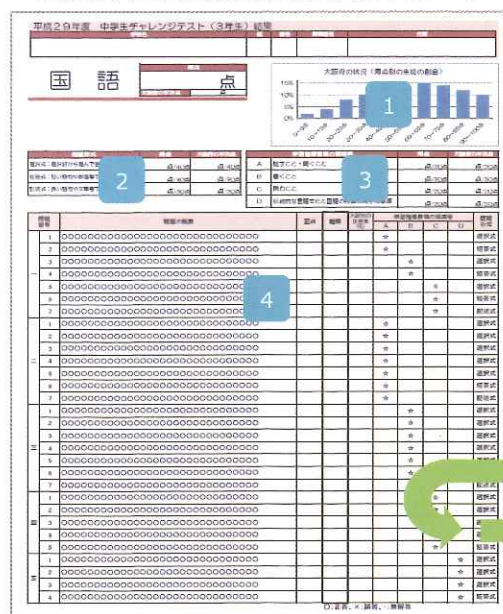


結果の提供について

- ✧ 結果は、生徒一人ひとりに個人票で提供されます。（平成29年9月中に学校から提供される予定です。）

生徒のみなさんに提供される個人票のイメージ



個人票には、以下の内容が記載されています

- 1 大阪府全体の得点ごとの生徒の割合
- 2 問題形式別のあなたの得点、大阪府の平均点
- 3 問題領域別のあなたの得点、大阪府の平均点
- 4 問題ごとのあなたの結果、大阪府の正答率等

個人票は、今後の学習に活用できます

- ✧ 自分の学習の得意なところや苦手なところがわかります。
- ✧ 間違った問題にもう一度取り組んだり、苦手分野の復習につなげたりすることができます。

- ✧ 日々の学習や苦手分野の復習に役立つ情報については、大阪府教育庁 市町村教育室 小中学校課のWebページに掲載していますので、ご活用ください。
「ワークブック」 <http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>
「力だめしプリント」 <http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikarasyoukai/index.html>

大阪府公立高等学校入学者選抜の調査書の評価について

- 各学校が調査書に記載する第3学年の評価は、以下の方法で決定します。
- (1) 中学2年生の1月に実施したチャレンジテストの結果を使って、大阪府教育委員会が中学3年生の「府全体の評価平均」を求めます。
 - (2) 各学校は、「府全体の評価平均」と中学3年生の6月に実施するチャレンジテスト（本テスト）の結果を活用し、自校の「評価平均の範囲」を求めます。
 - (3) 各学校は、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）5段階で各生徒の評価を定めます。その際、学校の評価平均が、(2)で求めた「評価平均の範囲」内にあることを確認します。

（例）「府全体の評価平均」が、3.32であった場合

	X中学校	Y中学校	府全体
中3チャレンジテストの平均点	57.0 点	63.0 点	60.0 点
中3チャレンジテストの対府比[A]	0.95	1.05	1.00
評価平均の目安[B]（「府全体の評価平均」×[A]）	3.15	3.49	3.32
評価平均の範囲（[B]－0.30～[B]＋0.30）	2.85～3.45	3.19～3.79	—

- ・ 中学3年生で実施するチャレンジテスト（本テスト）の各学校の平均点と大阪府の平均点との比（対府比）を「府全体の評価平均」に乗じて得られる数値を各学校の「評価平均の目安」とします。
- ・ 「評価平均の目安」±0.30 を「評価平均の範囲」とします。

※事業の一部（調査問題の配送・回収、採点・集計等）は、大阪府教育委員会が民間機関に委託して実施します。

調査実施日 平成29年6月21日（水）

生徒・保護者のみなさんへ

「平成29年度中学生チャレンジテスト（3年生）」を実施します。

大阪府教育委員会

調査の目的

- 大阪府教育委員会、市町村教育委員会及び学校が、生徒の学力の状況をつかむことで、教育の成果と課題を明らかにし、今後の教育にいかします。
- 生徒のみなさんが、自分の学習の到達状況を正しく知ることにより、自分の学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高めます。
- 大阪府教育委員会が、調査結果を使って、大阪府公立高等学校入学者選抜の調査書に記載する評価が、公平性の高いものであるかどうかを確認する資料を作成し、市町村教育委員会と学校に提供します。

調査の内容

- 対 象：府内の市町村立中学校、義務教育学校後期課程、特別支援学校及び府立支援学校 中学部の第3学年の生徒
- 教 科：国語、社会、数学、理科、英語
（英語はリスニング問題を含む）
- 出題形式：選択式問題（選択肢から選んで答える問題）
短答式問題（短い語句や数値等で答える問題）
記述式問題（長い語句や文章等で答える問題）
- 調査時間：1教科あたり 45 分

時間割

1 時 限 目	2 時 限 目	3 時 限 目	4 時 限 目	5 時 限 目
国語	社会	数学	理科	英語

※開始時刻は、各学校で決めます。

出題範囲等について

国語

- ◆ 中学校2年生までに学習したすべての内容
※以下の題材を用いて、内容を正確に理解したり、適切に表現したりすることについて出題します。
《取り扱う題材》
 - 漢字の読み・書き、言葉の特徴やきまり、伝統的な言語文化に関すること
 - 文学的な文章、説明的な文章、古典など
 - 児童・生徒が作成したもの、その他図表等を含むさまざまな種類の資料
 - 書写（楷書と行書）に関すること

社会

- ◆ 地理的分野
地理の教科書のすべての内容
- ◆ 歴史的分野《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	歴史的分野	ページ
東京書籍	「第6章 1節 第一次世界大戦と日本」まで	P.5～P.197
教育出版	「第7章 2 大正デモクラシー」まで	P.4～P.205
帝国書院	「第5部 6章 高まるデモクラシーの意識」まで	P.1～P.201
日本文教出版	「第5編 第2章 2 大正デモクラシーの時代」まで	P.6～P.219

※上記以外のページにある資料等（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含まれます。

数学

- ◆ 1, 2年生の教科書のすべての内容
- ◆ 3年生《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名	ページ
東京書籍	1章 多項式	P.8～P.35
学校図書	1章 式の計算	P.12～P.45 ◆P.25,26（素因数分解）を除く
教育出版	1章 式の計算	P.9～P.44 ◆P.32～34（素因数分解）を除く
啓林館	1章 式の展開と因数分解	P.12～P.39 ◆P.22,23（素因数分解）を除く
数研出版	1章 式の計算	P.14～P.43 ◆P.38,39（素因数分解）を除く
日本文教出版	1章 式の展開と因数分解	P.10～P.45 ◆P.38,39（素因数分解）を除く

※上記以外のページにある資料等（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含まれます。

理科

- ◆ 1, 2年生の教科書のすべての内容

英語

- ◆ 1, 2年生の教科書のすべての内容
- ◆ 3年生《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名	ページ
東京書籍	Unit0, Unit1	P.4～P.15
開隆堂	Classroom English, PROGRAM1	P.6～P.15
学校図書	Pre-lesson, Lesson1	P.5～P.15
三省堂	Lesson1	P.6～P.10
教育出版	Lesson1	P.4～P.13

《取り扱う言語材料》

- 単文、重文及び複文
- 肯定及び否定の平叙文
- 肯定及び否定の命令文
- 疑問文のうち、動詞で始まるもの、助動詞（can, do, may など）で始まるもの、or を含むもの及び疑問詞（how, what, when, where, which, who, whose, why）で始まるもの
- 文構造
 - [主語＋動詞]
 - [主語＋動詞＋補語]のうち、主語＋be 動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$ 、主語＋be 動詞以外の動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$
 - [主語＋動詞＋目的語]のうち、主語＋動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \\ \text{動名詞} \\ \text{to 不定詞} \\ \text{that で始まる節} \end{array} \right\}$
 - [主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語]のうち、主語＋動詞＋間接目的語＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \end{array} \right\}$
 - There ＋ be 動詞＋～
- 代名詞
 - 人称、指示、疑問、数量を表すもの
- 動詞の時制など
 - 現在形、過去形、現在進行形、過去進行形及び助動詞などを用いた未来表現
- 形容詞及び副詞の比較変化
- to 不定詞
- 動名詞
- 受け身
- 音声に関するもの

※上記以外のページにある資料等（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含まれます。

結果の提供について

- ◇ 結果は、生徒一人ひとりに個人票で提供されます。（平成29年9月中に学校から提供される予定です。）

生徒のみなさんに提供される個人票のイメージ

個人票には、以下の内容が記載されています

- 1 大阪府全体の得点ごとの生徒の割合
- 2 問題形式別のあなたの得点、大阪府の平均点
- 3 問題領域別のあなたの得点、大阪府の平均点
- 4 問題ごとのあなたの結果、大阪府の正答率等

個人票は、今後の学習に活用できます

- ◇ 自分の学習の得意なところや苦手なところがわかります。
◇ 間違った問題にもう一度取り組んだり、苦手分野の復習につなげたりすることができます。

- ◇ 日々の学習や苦手分野の復習に役立つ情報については、大阪府教育庁 市町村教育室 小中学校課のWebページに掲載していますので、ご活用ください。
「ワークブック」 <http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>
「力だめしプリント」 <http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikarasyoukai/index.html>

大阪府公立高等学校入学者選抜の調査書の評定について

- 各学校が調査書に記載する第3学年の評定は、以下の方法で決定します。
 - (1) 中学2年生の1月に実施したチャレンジテストの結果を使って、大阪府教育委員会が中学3年生の「府全体の評定平均」を求めます。
 - (2) 各学校は、「府全体の評定平均」と中学3年生の6月に実施するチャレンジテスト（本テスト）の結果を活用し、自校の「評定平均の範囲」を求めます。
 - (3) 各学校は、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）5段階で各生徒の評定を定めます。その際、学校の評定平均が、(2)で求めた「評定平均の範囲」内にあることを確認します。

(例) 「府全体の評定平均」が、3.32であった場合

	X中学校	Y中学校	府全体
中3チャレンジテストの平均点	57.0 点	63.0 点	60.0 点
中3チャレンジテストの対府比[A]	0.95	1.05	1.00
評定平均の目安[B]（「府全体の評定平均」×[A]）	3.15	3.49	3.32
評定平均の範囲（[B]－0.30～[B]＋0.30）	2.85～3.45	3.19～3.79	—

- ・ 中学3年生で実施するチャレンジテスト（本テスト）の各学校の平均点と大阪府の平均点との比（対府比）を「府全体の評定平均」に乗じて得られる数値を各学校の「評定平均の目安」とします。
- ・ 「評定平均の目安」±0.30 を「評定平均の範囲」とします。

※事業の一部（調査問題の配送・回収、採点・集計等）は、大阪府教育委員会が民間機関に委託して実施します。

調査実施日 平成29年6月21日（水）

生徒・保護者のみなさんへ

「平成29年度中学生チャレンジテスト（3年生）」を実施します。

大阪府教育委員会

調査の目的

- 大阪府教育委員会、市町村教育委員会及び学校が、生徒の学力の状況をつかむことで、教育の成果と課題を明らかにし、今後の教育にいかします。
- 生徒のみなさんが、自分の学習の到達状況を正しく知ることにより、自分の学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高めます。
- 大阪府教育委員会が、調査結果を使って、大阪府公立高等学校入学者選抜の調査書に記載する評定が、公平性の高いものであるかどうかを確認する資料を作成し、市町村教育委員会と学校に提供します。

調査の内容

- 対 象：府内の市町村立中学校、義務教育学校後期課程、特別支援学校及び府立支援学校 中学部の第3学年の生徒
- 教 科：国語、社会、数学、理科、英語
（英語はリスニング問題を含む）
- 出題形式：選択式問題（選択肢から選んで答える問題）
短答式問題（短い語句や数値等で答える問題）
記述式問題（長い語句や文章等で答える問題）
- 調査時間：1教科あたり 45 分

時間割

1 時 限 目	2 時 限 目	3 時 限 目	4 時 限 目	5 時 限 目
国語	社会	数学	理科	英語

※開始時刻は、各学校で決めます。

出題範囲等について

国語

- ◆ 中学校2年生までに学習したすべての内容

※以下の題材を用いて、内容を正確に理解したり、適切に表現したりすることについて出題します。

《取り扱う題材》

- 漢字の読み・書き、言葉の特徴やきまり、伝統的な言語文化に関すること
- 文学的な文章、説明的な文章、古典など
- 児童・生徒が作成したもの、その他図表等を含むさまざまな種類の資料
- 書写（楷書と行書）に関すること

社会

- ◆ 地理的分野

地理の教科書のすべての内容

- ◆ 歴史的分野《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	歴史的分野	ページ
東京書籍	「第6章 1節 第一次世界大戦と日本」まで	P.5～P.197
教育出版	「第7章 2 大正デモクラシー」まで	P.4～P.205
帝国書院	「第5部 6章 高まるデモクラシーの意識」まで	P.1～P.201
日本文教出版	「第5編 第2章 2 大正デモクラシーの時代」まで	P.6～P.219

※上記以外のページにある資料等（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含まれます。

数学

- ◆ 1, 2年生の教科書のすべての内容

- ◆ 3年生《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名	ページ
東京書籍	1章 多項式	P.8～P.35
学校図書	1章 式の計算	P.12～P.45 ◆P.25,26（素因数分解）を除く
教育出版	1章 式の計算	P.9～P.44 ◆P.32～34（素因数分解）を除く
啓林館	1章 式の展開と因数分解	P.12～P.39 ◆P.22,23（素因数分解）を除く
数研出版	1章 式の計算	P.14～P.43 ◆P.38,39（素因数分解）を除く
日本文教出版	1章 式の展開と因数分解	P.10～P.45 ◆P.38,39（素因数分解）を除く

※上記以外のページにある資料等（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含まれます。

理科

- ◆ 1, 2年生の教科書のすべての内容

英語

- ◆ 1, 2年生の教科書のすべての内容

- ◆ 3年生《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名	ページ
東京書籍	Unit0, Unit1	P.4～P.15
開隆堂	Classroom English, PROGRAM1	P.6～P.15
学校図書	Pre-lesson, Lesson1	P.5～P.15
三省堂	Lesson1	P.6～P.10
教育出版	Lesson1	P.4～P.13

《取り扱う言語材料》

- 単文、重文及び複文
- 肯定及び否定の平叙文
- 肯定及び否定の命令文
- 疑問文のうち、動詞で始まるもの、助動詞（can, do, may など）で始まるもの、or を含むもの及び疑問詞（how, what, when, where, which, who, whose, why）で始まるもの
- 文構造
 - [主語＋動詞]
 - [主語＋動詞＋補語]のうち、主語＋be 動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$ 、主語＋be 動詞以外の動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$
 - [主語＋動詞＋目的語]のうち、主語＋動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \\ \text{動名詞} \\ \text{to 不定詞} \\ \text{that で始まる節} \end{array} \right\}$
 - [主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語]のうち、主語＋動詞＋間接目的語＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \end{array} \right\}$
 - There ＋ be 動詞＋～
- 代名詞
 - 人称、指示、疑問、数量を表すもの
- 動詞の時制など
 - 現在形、過去形、現在進行形、過去進行形及び助動詞などを用いた未来表現
- 形容詞及び副詞の比較変化
- to 不定詞
- 動名詞
- 受け身
- 音声に関するもの

※上記以外のページにある資料等（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含まれます。